【県指定・史跡】

トマチン遺跡（いせき）

（令和４年４月 26 日指定）

遺跡遠景（右端の林の中）

石棺墓出土状況（新里貴之氏提供）

○　**所在地**　　大島郡伊仙町佐弁トマチン 295

○　**所有者**　　伊仙町

○　**特　徴**

トマチン遺跡は，徳之島の南海岸のやや東に位置します。サンゴ礁の浅海とそれに続く砂丘上の一角にあり，標高約 15m，長さ約 50mの小丘上に立地しています。

この遺跡は，平成４年，重機による土砂採取作業中に石棺墓（せっかんぼ）と人骨が発見されたことで知られるようになりました。その後，平成 16 年から 20 年にかけて鹿児島大学を中心とする調査チームによる発掘調査が実施され，また平成 28 年度から令和元年度にかけては伊仙町教育委員会によって発掘調査が実施されました。その結果，約 2,400 年前から約 2,000 年前（弥生時代前期から中期）にかけての石棺墓４基と土坑墓２基や，土器，貝製品などが発見されました。

埋葬時期の異なる人骨が３段のサンゴ礫（れき）の床にそれぞれ重ねられている石棺墓があること，また，複数の墓のまとまりを礫で覆うことにより墓域を表示していた可能性があることなどは特徴的です。また，九州より北の地域との関係を示すヒスイも出土しました。

このように，トマチン遺跡は，奄美群島の先史時代の墓制と文化交流の実態を理解する上で貴重な遺跡です。